鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第103号　H27．12．24

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

詐欺と部活と高校生活

国語科　宮脇　健一

多田文明という人を知っていますか？悪徳商法やキャッチセールスなど、人を騙して儲けを企む商売のレポートを得意とするルポライターです。その取材方法がおもしろい。自らが消費者となって悪徳商法に迫るんです。つまり、自ら騙される。体当たりの取材、というよりも、実際に騙される寸前（お金をだまし取られたこともあるようです）までついていって、それをレポートするので臨場感に溢れています。最近でも、マイナンバー詐欺問題などを取り上げた情報番組でコメントを出すほど、詐欺事件についての造詣が深い方です。

その多田さんは、著書『ついていったら、だまされる』（理論社）の中で、こんな疑問を投げかけています。「詐欺の被害が増え続けるのはなぜ？」

確かに、振り込め詐欺ひとつを見ても、平成二十七年度上半期まで増加の一途です（警察庁統計より）。これだけテレビ等で報道され、その手口も詳しく知らされるのに、詐欺にひっかかるのはなぜでしょう？　悪徳商法なんかにだまされるはずがない、と高を括っている人は、この増え続ける被害件数・被害額を見てもやはり「だまされない」という自信を持っていられるのでしょうか？　多田さんは被害者への取材や自らの経験を通して、詐欺の被害に遭いやすい人をこう分析しています。「だまされやすい人は、疑問をもつが、それをもち続けないで途中で放り投げることが多い。」

私は、どちらかというと騙されない自信があった方なのですが、これを読んで危機感を持ちました。果たして、「疑問をもち続けること」ができているか？

多田さんは、さらに追及します。なぜ疑問をもち続けることができないのか、それは、考えない方が、信じ込んだ方が「楽だから」と。

私たちは教科書に書いてあること、習ったことを「真実」として信じ込みます。心酔している人の言うことを「真実」として、何も考えずに信じ込むことさえあります。しかし、果たしてそれでいいのでしょうか？　見たこともない水素原子やあると思い込んでいるアデニンの「存在」を確かめたいと思う気持ちを、もち続けることが大切ではないでしょうか。それと同時に、自分が直接見聞きした情報以外のもの、つまり、真実かどうかを確かめていない「知」を、どこか疑ってかかる精神を失いたくないものです。「そんなことをしてたら何も捗らないよ」「そんなの合理的じゃないよ」という批判は当然です。でも、「既存の情報を疑ってかかること」「深く物事を考えるところ」に真理は潜んでいるということをどこかに覚えておいてほしいのです。合理的に（いや、この場合「効率的に」というべきでしょうか）物事を行うことは大切なことです。しかし、それは「思考停止」に繋がる危険を孕んでいます。人を騙そうとする人たちは、そこにつけこんで言葉巧みに言い寄ってくるのです。騙されないために、偽の情報に振り回されないために、真理に行き着くために、疑問をもち続けることを忘れないことです。「楽だから」という理由で、思考することを放棄してはならないのです。

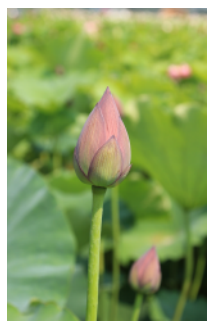
「〇〇し続けること」の難しさは、部活動を見ていると感じずにはいられません。大会に出場すると、どうしても勝ちたい試合って出てきますよね。甲鶴戦などは最たる例でしょう。しかし、勝負どころで一本が取れない。なぜか？　答えは簡単です。日頃の練習で自分を追い込んでいないからです。負けた翌日は、悔しい思いをした選手たちが一生懸命練習をします。「もうあんな悔しい思いはしたくない」と。翌々日、翌週、二週間後、……、いつの間にか練習から緊張感がなくなります。あれほど悔しい思いをしたはずなのに……。なぜでしょう？

ここにも、さきほど述べた「楽だから」の心理がはたらくのです。この「楽だから」の心理に勝たない限り、悔しい思いから逃れることは、きっとできません。ストイックに自分を追い込んで練習していない選手が、勝負どころの一本をとれるはずがありません。楽な方に逃げる「逃げグセ」は、日々の練習の中で、知らず知らずのうちに養われているのです。

「〇〇し続ける」ことは大変です。でも、それを普段の勉強の中で、部活動の中でやっていかないと、本番で結果を残すことはできないもの。体のいい言葉で言い訳をしてはいないか、合理的にやろうとして本質を見失ってはいないか、楽をしようとしていないか、……。自らの生き方を見直してみましょう。

高校生活は思ったよりもずっと忙しいですね。でも、忙しい中でしか鍛えられないことがあります。それは「効率」なんかではない。立ち向かう自分の姿勢です。今、この鶴丸で、それぞれの目標に向かって動いている皆さんに、私が敬愛するアーティスト浜田省吾さんの言葉を贈って、この文章を終わりとします。

「十代は輝いている、青春時代はすばらしい、なんていうのは年老いた人の言葉。十代二十代という青春時代のまっただなかにいる本人たちにとっては、今が一番きつくてつらい。だから、やってられないって思ったり、落ち込んだりして当然。でも、苦しんで、楽しんで、たくさん失敗して、がんばってほしい。失敗は若い人の特権だから。」



一冊の本から思索を深める

一・二年生集団読書

十一月十六日、一・二年生の各クラスで集団読書が実施された。テキストは米原万里著『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』（角川文庫）。事前に読んで話し合いに臨んだ生徒たちは、各学級で設定したテーマにそって熱のこもった議論を行っていた。次は生徒の事前感想文である。

「現在もなお続く社会主義国といわれると、中国をはじめとするわずか五ヶ国にとどまる。ソ連などの国々の衰退を鑑みると、誰もが平等な理想郷など存在しないのだと思い知らされる。他人事のように私がそう言えるのは、社会主義を過去のものととらえているからに相違ない。

一方で、国家や政治に翻弄されながらも激動の時代を生き抜いたのが、リッツァ、アーニャ、ヤスミンカ、そしてマリである。

三章にわたって共通する彼女らの愛国心は印象的だった。三者三様に祖国の素晴らしさをマリに語るような場面に私が出会ったことがないのは、学校環境によるものではあるまい。大きく、強く、幸福な日本にいては、そのような感情は芽生えにくいのだろう。

ともあれ、性格は大きく違えど愛国心の強さはよく似ていたはずの三人は、全く別の人生を歩むこととなる。チェコを追いやられ、逆境にありながらも地道な努力で医師となったリッツァ。平等をうたう社会主義国の特権階級として、理念とは程遠い生活を送るアーニャ。つつましくも幸せな生活を民族戦争で奪われたヤスミンカ。崇高な意志をもって生まれたはずの社会主義がこのような結果をもたらすとは皮肉の限りである。

しかし、リッツァが言うには、悪いことばかりでもなかったらしい。私たちには想像しがたいことだが、コンサートや芝居、芸術鑑賞が日常にあふれ、職業による身分の上下がない。社会主義と資本主義を共に体験したリッツァだからこそ言える真実の一面だと思う。万人の平等を説いた社会主義は、多くの矛盾をはらみ、一部を残して崩壊した。これは社会主義が完璧ではないことを言い表していると言っても過言ではない。必然的に格差を産む資本主義社会にいる私達は、それを理由に平等をあきらめてしまっても良いのだろうか。

せめて、この国にある人々が感じる最低限度の幸福だけは等しくあってほしいと思う。」

（一一R　西村　優奈さん）

センター試験激励会開催される

十二月二十一日、本校体育館において、センター試験に臨む三年生を応援団が激励する「センター試験激励会」が実施された。この日のために練習を重ねた一・二年生の応援団が、三年生のセンター試験の成功を祈念してエールを送った。応援団長の久保雄貴さん（二二R）が「われわれ後輩は、三年生の先輩方の力を確信しています。あとは、栄養を十分とって（特にDHA）本番に備えてください。」と述べた。これを受け、三年生を代表して、山口優希さん（三七R）がお礼を述べた後に、「高校生活を通し、後悔も充実もそれまでの過程が大きく影響することを学びました。プロセスの大切さを実感しています。納得いく結果になるように、今後センター試験までの日々を充実させていきます。」と述べた。

生徒会新執行部発足

生徒会長選挙により、村谷会長が選出され、平成二十七年度後期生徒会執行部が発足した。新役員は以下の通り、

生徒会長　村谷　薫（二一R）
副会長　大内山　辰志（一三R）
松山　桃花（一三R）
体育局長　三好　紗理依（二七R）
局長補佐　荒川　かれん（二七R）
高崎　圭一郎（二二R）
上久木田　治毅（一七R）
文化局長　小田　拓実（二一R）
局長補佐　下津　翔夏（一二R）
田畑　ゆうみ（一三R）
上野　彩花（一四R）
書記総括　福元　理子（二四R）
書記　齋野　菜摘子（二二R）
齋藤　優花（一七R）
藤山　創十郎（一七R）
会計総括　山崎　雄大（二一R）
会計　中能　理紗子（二三R）
森山　勇希（一三R）
宮路　あいか（一五R）
学年代表　西田　虎生（一一R）
根木原　篤（二四R）
岩田　淳志（三七R）

1月の行事予定

1月			
1	金	元日	冬季休業日
2	土		
3	日		
4	月	3年センタープレ	
5	火	3年センタープレ	
6	水	3年センタープレ	
7	木	3年センタープレ	
8	金	授業開始日　全校朝会 職員会議	
9	土	午前中全館停電	
10	日		
11	月	成人の日	
12	火	1・2年実力考査(1日目)	
13	水	1・2年実力考査(2日目)	
14	木		
15	金		
16	土	センター試験(1日目) 悠学講座⑧	
17	日	センター試験　(2日目)	
18	月	学年朝会 センター自己採点	教育相談　平常授業
19	火	3年特別授業開始	
20	水		
21	木		
22	金	3年進路判定会	
23	土	2年進研模試 1年学研ハイレベル模試	
24	日	2年進研模試	
25	月	全校朝会 生活実態調査	
26	火		
27	水	職員会議	
28	木		
29	金		
30	土	2年駿台東大レベル模試	
31	日		